

茨木高校野球部

OB会報

発行

大阪府立茨木高校

野球部OB会

ビバ！高校野球

高校35回主将 矢延隆生



「祝！甲子園初出場！」

校舎に掛けられた垂れ幕を見上げて空しさがこみ上げてきた…

1982年夏、「公立の星」として甲子園出場を決めた春日丘高校は自転車通学の通り道にあった。届かぬ夢とは言え、高校球児としては悔しい思いが出た。

昨年、同期の妹尾君から声がかかり、春日丘の当時のエース田宮君と飲んだ。30数年前の懐かしい話で大いに盛り上がり楽しかった。「高校野球」という青春時代にはすぐにタイムスリップできるのが嬉しい。最後まで続けた同期チームメイト9人とは、今でも時々こうして杯を酌み交わしている。

高校2年時の夏に新チームとなり、主将に選ばれた。1年からレギュラーとなつている二人、当時大阪で「屈指の左腕」と言われた妹尾君（阪大で神宮大会にも出場）とシユアな打撃が

売り（当時の新聞にそう書かれたと思う）の捕手遠藤君を擁する我がチームは結構強かった。浪商など私学の強豪からも練習試合の申し込みがあり鍛えられた。

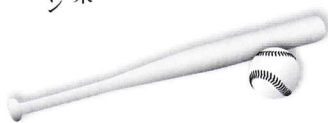
ただ選手にとつて、当時まだ学生だった尾崎監督は凄く怖かった。グラウンドに現れるだけでピリッと背筋が伸び、出す声も一段と大きくなる。試合でミスをする翌日何周もグラウンドを走らされたし、笑顔の時もメガネの奥の目は笑っていないと噂された（笑）。今だから言える話だが、当時は尾崎監督対策とし、練習で疲れた声が出てない時は私が「集合！」と全員集め、怒られる前にわざと気合を入れるという芸当も自然に身に着けていったのだ。

そんな厳しい指導もあり、秋季大会では結果に繋がった。二回戦の農芸高校のゴールド勝ちから始まり、都島工、富田林に接戦で勝ち、ベスト8を叩き万博球場で大成高校と対戦。試合前、相手チームのキャプテン古久保君（後に近鉄入団）は握手した時、ニヤツとして私の手を握りつぶすようにギョツと締めつけ威圧する。試合は5回に1点取られ終盤を迎え、8回一番打者、私の打席。打球は左中間を破り、懸命に走り三塁へ。加藤君のタイムリーで生還し同点に追いつく。ベンチは何とも言えぬ盛り上がりを見せ、マネージャーの宮崎さんも涙ぐんでいた。

しかし、9回裏2死満塁から中前打を4番富山君に打たれサヨナラ負け。これが我がチームの頂点だった。後にフジテレビで「プロ野球ニュース」の日本ハム担当記者となり古久保選手と再会したが、この試合のことは彼も鮮明に覚えていた。

そして迎えた三年最後の夏の大会。二回戦の清教学園との試合は、2年生水上君の勝ち越し本塁打で3-2、辛くも逃げ切り三回戦へ。相手は春季大会の四回戦で敗退した高津高校。高津もこの年注目されており、進学校同士の強豪対決として朝日放送の夕方のニュースが取材に来ていた。試合は春に続き、再び2-0で敗れるのだが、その後グラウンドで主将ということでインタビューを受け、球場の外に出るとチームメイトが円陣を組んでいる。輪に入ると、尾崎監督が泣きながら挨拶をしているではないか。全員泣いている。鬼の目に涙か。ただ私は遅れて入ったので挨拶を聞いていないが、なぜか一緒に泣いた。これが高校野球だと思つて。

この時のメンバーは、公私問わず様々な場面で再会している。特に同期の9人は悪友でもあり、一生忘れられない何か自分の全てを知っている絆が深い（仲間の）ような気がする。現役の皆さんも、必ず将来酒を飲みながら今苦しいことも笑い話で語れる日が必ず来るから。高校野球、バイバイ！



野球部顧問より

高21回 池永 徹



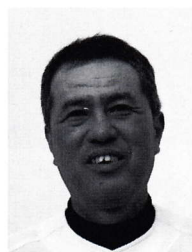
新緑の候、OBの皆様におかれましては益々ご健勝のことと存じます。

今年も野球部のOBが大学入試において頑張ってくれました。その結果、最近5年間に卒業した野球部OBの京阪神3大学の進学率が51%になりました。たいへんうれしく思っています。現在私は再任用教諭という身分で勤務しています。その身分は最大5年で今年が最終年に当たりますが、4月から担任をしています。茨木高校の先生どうしが結婚され、担任予定だった理科の先生が転勤されたので、そのピンチヒッターとして3年の担任に入りました。2年前と同様のケースで、2年の経験を活かしながら最後の力を振り絞って取り組んでいます。

この春卒業した67期は7人、68期は9人しか入部してきませんでした。67期生の新チーム結成時には選手が16人しかおらず、チームの先行きを大いに心配しました。ところが、69期は15人、70期は19人の選手が入部し、二人も退部することなく活動しています。また元気な女子マネージャーが3年4人、2年3人、1年2人いて合計9人で1チームが編成できる人数です。活気あふれるチーム状態となり、喜ばしい限りです。夏に向けて和田監督と部員が丸となつて頑張っていますのでOBの皆様もご支援よろしく願います。

監督より

高30回 和田 充司



OBの皆様におかれましてはますますご健勝のことと存じます。いつも野球部にひとかたならぬご支援ご協力をいただいていることにあらためてお礼申し上げます。

今年のチームは昨夏の2年生エース大村がそのまま残る形でスタートしました。そのため、ある意味当然のことながら夏休みの練習試合でそれなりの試合はできました。が、秋季大会は2回戦で大産大高校に1対8でコールド負け。力の差をまざまざと見せつけられた試合でした。1学区公立校大会は幸い予選リーグを1位通過し11月の決勝トーナメントにのぞみました。が、ここでは池田に競り負け決勝進出を逃しました。いい試合はするけれど結果としては負けてしまうというチーム状態のまま迎えた冬のオフシーズンでした。そこからは例年以上に皆が練習をがんばりました。主将の伊藤、副主将の大村・竹下が緻密な練習計画を立て、早朝から全員で体力づくりと基礎練習を行いました。主将はまた「授業中は寝るな」と皆にきびしく言ってくれました。次元の低い話に思われるでしょうが、高校生が日々実践していくのは結構大変なことです。そして「高レベルでの文武両道」をめざす野球部のきほんの「き」でもあります。厳しい寒さの中でそんな取り組みを3ヶ月間続けた後、待つていた春を